

第4回士別市立病院のあり方検討市民委員会 議事録

1. 開催日時 令和7年8月7日（木）18時00分～19時25分

2. 開催場所 士別市立病院 2階会議室

3. 出席者 委員：6名（欠席4名）

事務局他：副院長、他6名

4. 傍聴者 0名（報道3社）

5. 会議内容 開会

（1）事務連絡

（2）議題

①士別市立病院の将来のあり方に関する検討について

・前回委員会の内容整理

・具体的な診療機能について

i) 入院機能

ii) 外来機能

iii) 救急機能

IV) 感染症対応機能

（3）その他

閉会

※配布資料

士別市立病院の将来のあり方に関する検討資料

6. 会議要旨

【事務連絡】

- ・この間の病院再整備に関する報告（議会特別委員会の開催など）
- ・「病院かわら版第3号」の発行

【議題① 士別市立病院の将来のあり方に関する検討について】

- ・前回委員会の内容整理について、事務局から資料に基づき説明。
- ・具体的な診療機能について、事務局から資料に基づき説明。

◆具合的な診療機能について（委員の意見概要）

i) 入院機能

- ・入院される方の高齢化が進む中、移動手段を持っていない方も増える。近くに入
院できる病院あることがベストだ。
- ・入院機能が必要ないと思う市民はいないと思う。地域にとって必要な入院機能は
維持してほしい。
- ・入院機能は当然必要である。緊急の場合も、市内に搬送できたら入院する患者も
安心できる。

- ・名寄市の病院までとなると時間がかかる。長期の入院となると、車など移動手段がないとお見舞いできない。少しでも近いところに入院できる病院があったらよい。
- ・リハビリについて、旭川の方がより専門的に診てもらえると思い旭川の病院を選んだ。士別市でもより専門的に診ることができ、入院できればよいと思う。
- ・士別市立病院は病床数が129床で充足率は80%程度である。高度急性期は名寄市立総合病院など、入院を断っているわけではなくそれぞれ病床機能ごとに役割がある。回復期はリハビリから在宅へ、期間が長くなりすぎないように。慢性期は長期の療養を要する。ベッドの回転数を保ちながら、充足率を上げていくことが望ましい。
- ・人口減少の影響があり、入院病床がなくなると圏域内のニーズをどうするかの見点が出てくる。圏域全体での議論が必要。

ii) 外来機能

- ・市内には民間の病院がある。診療科の重複はあるが、どこで診てもらえばよいかわからないときに最初に行くのが市立病院である。一定の診療科があった方がよいと思うが、人口の減少は不安要素である。産婦人科や小児科があることは若い親にとっては重要である。
- ・診療科が充実していることに越したことはないが、現状を維持してほしいというのが今の市民の希望だと思う。総合診療科の設置もよいと考えるが、士別は旭川とそこまで遠いわけではないので、応援を頼もうと思えばできない場所ではない。医師の確保など、旭川との連携も含め検討いただきたい。

- ・人口減少、若い人の流出を少しでも食い止めることを考えた時、難しい問題ではあるが産婦人科の設置を考えるべき。産科がないため土別を離れる方もいる。名寄に集約という考えもあるが、住む市民から考えると何かあった時にすぐにかかれる病院が近くにあることは重要である。
- ・患者は診察を受けるときに安心したい。初診の最初の言葉が重要であり、信頼がなければ患者が減るのは当たり前である。
- ・市立病院にはほとんどかかったことがないが、車を運転できるので市内より旭川とってしまう。しかし、高齢になり運転が難しくなるとお世話になることもあると思う。現在の診療科は維持してほしい。
- ・産婦人科や小児科は、通院や出産、車で送迎、孫の面倒など、市内にあったら親の負担が軽くなると思う。外来機能が総合的にあったらよい。
- ・ただ診療科目を増やせばいい問題ではない。適正な診療科目であるべき。

(事務局) 医師の絶対数は増え充足しつつあるが、地域や診療科の偏在が大きい。いつ緊急で治療があるか分からなく、激務である産科などの医師は少ない。

いろいろな疾患を持っている高齢者などの患者をどう支えていくか。それが地域に求められていると考えている。地方で医師確保に苦しんでいることについては、国に訴えていきたい。

iii) 救急機能

- ・1次、2次救急は貴重である。3次救急は名寄の方が効率的だと思う。

- ・救急を要請し、まずは近くの病院で診断するのは必要なことと思う。少しでも搬送時間が短い方がよく、高次の救急はそれからの判断となる。今後も現状の維持を希望する。
 - ・一般的な救急機能は維持してほしい。外傷の救急については、受入体制を整えて強化してほしい。一晩我慢して、もっと大変な状況になってから受診することも考えられる。
 - ・今後も現状の救急機能を維持してほしい。重篤な場合は旭川への搬送としてもらえるのか。
- (事務局) 消防隊の判断となる。まず、一番近い病院に搬送することで救命率が高い場合もあるかもしれない。高度な症状は直接搬送し、それ以外は士別に搬送、医師の判断を仰ぐのが今のルールである。
- ・救急機能は必要であり、名寄、旭川と病院同士が連携すべき。処置できるのであれば近い病院に、無理であれば搬送と、その判断を早くするために消防と病院の連携を強化すべき。脳や心臓の疾患は時間の問題がある。
 - ・子どもや高齢者などは救急の利用が多くなり、家族では判断できずに連れていくこともある。休日に受診して、改めて平日に外来受診をとなることもあり、不安である。士別では専門医に連絡をとるなどの連携を検討してほしい。
 - ・高齢者への地域の連絡体制がもっと必要になる。119番の判断も難しい。必要な方が利用できるとよい。

IV) 感染症対応機能

- ・公立病院として、ある程度の病床やスペースの確保が必要である。

- ・何かあった時の体制を整えるのは、当然必要なことだと思う。
- ・インフルエンザ、新型コロナなど、小児や乳児がかかると命取りである。手足口病やはしか、おたふくなど、広く感染症対策が必要である。
- ・新型コロナの爆発的感染の際もそうであったが、医師や看護師の確保ができるのか不安である。
- ・新型コロナの際、土別市立病院は慌ただしかったが、一生懸命対応していた。

○全体を通して

- ・人工透析について、地域に必要なものとは思いますが収益性はどうか。
- (事務局) これまでは医療として評価は高かったが、だんだんと見直しされ、これまでの水準と比べると落ちてきている。
- ・公立邑智病院の講演でもあったが、結局は職員の意識改革が大事である。病院がしっかりしていても、働く職員の行動で変わってしまう。職員の意識をどう高めていけるか、検討し頑張してほしい。
 - ・必要があって受診しているのに、受付時間が少しでも過ぎたら受診を断るのは残念。もちろんルールは必要だが、少なくとも医師に報告のうえ判断してもよいのでは。職員の教育や意識を高めてほしい。

(事務局) 公立邑智病院では職員の意識は高く、経営も自分事として考えている。患者さん中心の医療の本質だと思う。受付時間などルールはあるが、状況に応じて判断できるよう、意識を変えなければいけない。